

科研費応募の際に、様式(ワード文書)に図表を挿入する場合のテクニック

様式 S-1-12 応募内容ファイル (添付ファイル項目)

若手研究 (A・B) -3-

研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、要領に概要を簡潔にまとめた記述した上で、平成24年度
の計画と平成25年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時
の対応など、多岐からの検討状況について述べることも、次の点についても、要点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。
① 本研究を遂行する上での具体的な工夫(効果的に研究を進める上でのアイデア、効果的に研究を進めるための研究協力者から
の支援等)
② 研究計画を遂行するための研究体制について、研究代表者及び必要に応じて研究協力者(海外共同研究者、科学研究費への応募
資格を有しない企業の研究者、大学院生等(氏名、員数を記入することも可))の具体的な役割(図表を用いる等)
③ 研究代表者が、本研究とは別に職務として行う研究のために雇用されている者である場合、または職務でないが別に行う研究が
ある場合には、その研究内容と本研究との関連性及び相違性。

研究計画・方法(概要)

※研究目的を達成するための研究計画・方法について、簡潔にまとめて記述してください。

「科研費に育てられた情報学の研究」

日本における情報学は、1987年頃から研究施設や情報工学科等が創設され出して顕在化した若い学問分
野である。ここでは、情報科学・情報工学、ソフトウェア科学・工学、知能科学等を包含したものと
情報学と言う。その後、この情報学は、現在に至るまで、コンピュータ及びネットワーク技術と歩調を合わせ
ながら急速に発展・深化し、社会に浸透し、社会を、いや社会インフラや社会システム、生活のあり方さえも変え
つつある。

しかし、その黎明期においては、数教授は、当然、情報学固有の教育を受けて育ったわけではなく、電気
工学や数学、物理学出身の研究者達が、それぞれのやり方で方向や手法、理論を文字通り模索して進んできたよう
に思う。

私は、数学科出身であるが、学部4年から Turing 機械や計算可能性、帰納的関数等を勉強し、数学は使
うが既存の数学とは違った学問としての情報学に始めから取り組むことができた。それでも、その手法や発
想は、どうしても数学的なものになりがちだった。情報学の研究を、情報学が本来対象とすべき課題やデー
タや計算、それらを扱うコンピュータ、それらを利用するユーザを意識して展開できるようになったのは、
「特定研究」への参加があったからだと思っている。

1970年代に、3年もの連続した二つの特定研究「広域大量情報の高次処理」と「情報システムの形成過
程と学術情報組織化」に、形式上は一つの計画組のなかの「研究分担者」としてではあるが、実質的には、
研究の構想・計画から、実施・展開、ソフトウェアの開発、論文の作成、発表等に至るまでのすべてに、学
生もいない状況で取り組む、という貴重な経験をする事ができた。

(JSPS 発行「私と科研費」抜粋)

図を組み込む場合





- ・ 写真か図(JPEG,GIF など)を貼り付ける場合は、
- ・ 一旦、ブラウザ(IEなど)に読み込ませ、コピー&ペーストでワード文書に貼り付けるのが簡単！



編集(E)全て選択 → コピー



ただ、ワード画面に貼り付け
(コピー&ペースト)すると、
このように表が崩れてしまう！

様式 S-1-12 応募内容ファイル (添付ファイル項目)

若手研究 (A・B) - 3

研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭に概要を簡潔にまとめ記述した上で、平成24年度の計画と平成25年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、次の点についても、焦点を絞って、具体的かつ明確に記述してください。

- ① 本研究を遂行する上での具体的な工夫（効率的に研究を進める上でのアイデア、効率的に研究を進めるための研究協力者からの支援等）。
- ② 研究計画を遂行するための研究体制について、研究代表者及び必要に応じて研究協力者（海外共同研究者、科学研究費への応募資格を有しない企業の研究者、大学院生等（氏名、員数を記入することも可）の具体的な役割（図表を用いる等））。
- ③ 研究代表者が、本研究とは別に職務として行う研究のために雇用されている者である場合、または職務でないが別に行う研究がある場合には、その研究内容と本研究との関連性及び相違性。



このような場合、図上のポイントで
右クリックし、文字列の折り返し→
前面を指定すると元表の上にマウ
ントされる。



配置する位置に移動



研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭に概要を簡潔に記述し、平成25年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ記述してください。その対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、次の点についても、無き場合は「なし」と記述してください。

- ① 本研究を遂行する上での具体的な工夫 (効果的に研究を進める上でのアイデア) の支援等。
- ② 研究計画を遂行するための研究体制について、研究代表者及び必要に応じて研究協力者 (資格を有しない企業の研究者、大学院生等 (氏名、員数を記入することも可)) の具体的な役割。
- ③ 研究代表者が、本研究とは別に職務として行う研究のために雇用されている者である場合、またある場合には、その研究内容と本研究との関連性及び相違性。

今度は、
文字を隠してしまおう。。。

研究計画・方法 (概要) ※研究目的を達成するための研究計画・方法について、簡潔にまとめて記述してください。

「科研費に育てられた情報学の研究」

日本における情報学は、1967年頃から研究施設や情報工学科の設置などによって急速に発展・深化し、社会に浸透し、社会を、いやなく支えている。

しかし、その黎明期においては、教授陣は、当然、情報工学や数学、物理学出身の研究者達が、それぞれのやり方で行っていた。

私は、数学科出身であるが、学部4年から Turing 機械や計算可能性、帰納的関数等を勉強し、数学は使えなかった。数学とは違った学問としての情報学に始めから取り組むことができた。それでも、その手法や発想は、どうしても数学的なものになりがちだった。情報学の研究を、情報学が本来対象とすべき課題やデータや計算、それらを扱うコンピュータ、それらを利用するユーザを意識して展開できるようになったのは、「特定研究」への参加があったからだと思っている。

1970年代に、3年もの連続した二つの特定研究「広域大量情報の高次処理」と「情報システムの形成過程と学術情報の組織化」に、形式上は一つの計画班のなかの「研究分担者」としてではあるが、実質的には、研究の構想・計画から、実施・展開、ソフトウェアの開発、論文の作成、発表等に至るまでのすべてに、学



分
情
せ
え
気
う



研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭に概要を簡潔に記述し、平成25年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ記述してください。その対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、次の点についても、無き場合は「なし」と記述してください。

- ① 本研究を遂行する上での具体的な工夫 (効果的に研究を進める上でのアイデア) の支援等。
- ② 研究計画を遂行するための研究体制について、研究代表者及び必要に応じて研究協力者 (資格を有しない企業の研究者、大学院生等 (氏名、員数を記入することも可)) の具体的な役割。
- ③ 研究代表者が、本研究とは別に職務として行う研究のために雇用されている者である場合、またある場合には、その研究内容と本研究との関連性及び相違性。

今度は、図上のポイントで
右クリックし、文字列の折り返し→
「外周」を指定すると元表の文字が
図を避けてレイアウトされる。

研究計画・方法 (概要) ※研究目的を達成するための研究計画・方法について、簡潔にまとめて記述してください。

「科研費に育てられた情報学の研究」

日本における情報学は、1967年頃から研究施設や情報工学科の設置などによって急速に発展・深化し、社会に浸透し、社会を、いやなく支えている。

しかし、その黎明期においては、教授陣は、当然、情報工学や数学、物理学出身の研究者達が、それぞれのやり方で行っていた。

私は、数学科出身であるが、学部4年から Turing 機械や計算可能性、帰納的関数等を勉強し、数学は使えなかった。数学とは違った学問としての情報学に始めから取り組むことができた。それでも、その手法や発想は、どうしても数学的なものになりがちだった。情報学の研究を、情報学が本来対象とすべき課題やデータや計算、それらを扱うコンピュータ、それらを利用するユーザを意識して展開できるようになったのは、「特定研究」への参加があったからだと思っている。

1970年代に、3年もの連続した二つの特定研究「広域大量情報の高次処理」と「情報システムの形成過程と学術情報の組織化」に、形式上は一つの計画班のなかの「研究分担者」としてではあるが、実質的には、研究の構想・計画から、実施・展開、ソフトウェアの開発、論文の作成、発表等に至るまでのすべてに、学



分
情
せ
え
気
う

Context menu for text wrapping:

- 切り取り(C)
- コピー(C)
- 貼り付け(P)
- 図の編集(E)
- 図の変更(A)
- 最前面へ移動(R)
- 最背面へ移動(B)
- ハイパーリンク(H)
- 図表番号の挿入(N)
- 文字列の折り返し(W)
 - 行内(O)
 - 四角(S)
 - 外周(U)
 - 背面(D)
- サイズ(S)
- 図の表示設定(O)



研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭に概要を簡潔にまとめ記述した上で、平成24年度の計画と平成25年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ記述してください。また、研究計画が十分に進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、次の事項について記述してください。

- ① 本研究を遂行する上での具体的な工夫（効果的に研究を遂行するための工夫）の支援等。
- ② 研究計画を遂行するための研究体制について、研究代表者の所属（所属先が学外の場合は、所属先が研究を遂行する上でどのような支援を有しない企業・研究機関、大学院生等（氏名、員数を記述））について記述してください。
- ③ 研究代表者が、本研究とは別に職務として行う研究のために雇用されている場合は、その研究内容と本研究との関連性及び相違性。

完成形
きれいにレイアウトされている。

研究計画・方法（概要）※研究目的を達成するための研究計画・方法について、簡潔にまとめ記述してください。

「科研費に育てられた情報学の研究」

日本における情報学は、1967年頃から研究施設や情報工学科等が創設され出して顕在化した若い学問分野である。ここでは、情報科学・情報工学、ソフトウェア科学・工学、知能科学等を包含したものとして情報学と言う。その後、この情報学は、現在に至るまで、コンピュータ及びネットワーク技術と歩調を合わせながら急速に発展・深化し、社会に浸透し、社会を、いや社会インフラや社会システムのあり方さえも変えつつある。



しかし、その黎明期においては、教授陣は、当然、情報学固有の教育を受けて育ったわけではなく、電気工学や数学、物理学出身の研究者達が、それぞれのやり方で方向や手法、理論を文字通り模索していたように思う。

私は、数学科出身であるが、学部4年から Turing 機械や計算可能性、帰納的関数等を勉強し、数学は使うが既存の数学とは違った学問としての情報学に始めから取り組むことができた。それでも、その手法や発想は、どうしても数学的なものになりがちだった。情報学の研究を、情報学が本来対象とすべき課題やデータや計算、それらを扱うコンピュータ、それらを利用するユーザを意識して展開できるようになったのは、

注意点！

- やたらと貼り付けしない！
（1Pにつき1点か2点が限度）
 - 複雑な表を入れない。一方向に流れる図がベター
 - 審査員に渡る際は、モノクロ印刷で冊子として渡される。
- ※ カラーは使わない方がよい。